

平成 27 年度第 1 回御前崎市総合教育会議議事録

日 時 平成 27 年 4 月 24 日（金） 午前 9 時 30 分～午前 10 時 40 分
場 所 御前崎市役所 301 会議室
出席者 ○出席委員 御前崎市長 石原 茂雄
教育長 篠田 暁美
教育委員長 伊藤 博之
教育委員 田代 富美子
教育委員 吉村 勝
教育委員 紅林 幸枝
○欠席委員 （なし）
○事務局 萩原教育部長、大川総務部長、植田総務課長
長谷川学校教育課長、伊村教育総務課長
河原崎社会教育課長、松本教育総務課長補佐

会議日程

1. 開会
2. 市長あいさつ
3. 教育委員長あいさつ
4. 概要説明
5. 協議 (1) 御前崎市総合教育会議の運営について
(2) 御前崎市教育大綱の考え方について
(3) 御前崎の教育と教育課題について
6. 閉会

傍聴者 なし

1. 開会

○萩原教育部長（進行）

ただ今から第 1 回御前崎市総合教育会議を開催いたします。進行を務めさせていただきます教育部長の萩原です。よろしくお願いします。始めに市長挨拶。市長よりお願いします。

2. 市長あいさつ

○御前崎市長

改めまして皆様おはようございます。本日は、本年 4 月 1 日に施行されました「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」に基づき、「御前崎市総合教育会議」を招集させていただきました。

今回の改正のポイントは、大きく 3 つであろうと思っています。一つは、教育委員長と教育長を一本化した「新教育長」の設置。二つ目は、この「総合教育会議」の設置。三つ目は、教育に関する「大綱」の策定であります。改正法では「教育長」の任命、「総合教育会議」の招集、「大綱」の策定はすべて市長の責務や権限となっております。

この「総合教育会議」により、市長と教育委員会が公の場で協議あるいは調整することにより教育政策の方向性を共有し、執行に当たれるということは教育と行政のスクラム強化という点で大きな意義があると思っています。この会議も初めてのことでございますので、どうということになるのか自分でも不安に感じていますがよろしくお願いします。

○萩原教育部長

続きまして、伊藤教育委員長をお願いします。

3. 教育委員長あいさつ

○伊藤委員長

今日は、第1回「総合教育会議」が開催されることとなり大変うれしく思っています。教育環境が大きく変わる中、様々な教育課題が起こっています。それに対応していくに当たりまして、教育委員会だけではなく行政各部署との連携は不可欠であると考えます。

先ほど市長もおっしゃったように、この「総合教育会議」で市長と教育委員会が協議、調整することによりまして教育政策の方向性を共有し、共通認識をもって執行に当たれるということは大きな意義があると私も思っています。教育委員会がまさに提唱している「スクラム」そのままでないか、実践と考えます。どうぞよろしくお願いします。

4. 概要説明

○萩原教育部長

それでは始めに一部改正されました「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の概要につきまして、教育総務課長より説明します。

○伊村教育総務課長

(資料により、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正について説明)

5. 協議

(1) 御前崎市総合教育会議の運営について

○萩原教育部長

それでは次の協議に入っていただきたいと思います。この総合教育会議は、自由な発言による委員間協議が基本となっておりますので、活発な協議をお願いしたいと思います。

それでは第1番目の「御前崎市総合教育会議の運営について」、教育総務課長より説明いたします。

○伊村教育総務課長

今回の総合教育会議の事務の執行体制でございますが、改正法では両方とも市長の責務において行う事項となっております。本来ですと市長部局で事務執行を行うことが原則という形になりますが、市総務課とも協議をさせていただきまして、市長部局ではなく、教育委員会事務局教育総務課が担当するという方向で本日の会議に提案させていただいております。理由といたしましては、総合教育会議における協議の項目につきましては、多くが教育の分野に関わる項目であると想定されますので、教育委員会で担当の方が適切であり、合理的であるとの判断から導きをさせていただいております。ちなみに県内23市の状況でございますが、市長部局で行うところは8市、教育委員会でやるところは15市と聞いておりま

す。

なお、本会議等の法的な処理方法、手続きにつきましては、総務部長から説明をお願いしたいと思います。

○大川総務部長

現在、市長部局の業務を教育委員会へいろいろな形でお願いしておりますが、それは法的に言いますと、市長から教育委員会へ委任規則あるいは補助執行規則という形でお願いしています。委任といいますのは、権限全てを教育委員会へお願いするのが委任でございます。補助執行といいますのは、権限は市長にあります、業務的な事務を教育委員会にお願いするというものです。今回の総合教育会議の業務については、補助執行規則という形で教育委員会にお願いしたいと考えておりまして、市の規則を一部改正してお願いしたいと考えております。

教育総務課長から話がありました近隣市の状況も若干確認しましたが、牧之原市については市長部局で行うということで理由を聞いてみましたが、特に明確な理由はないということで、法の流れでとりあえず市長部局が担当するということでした。実際には日程調整とかを市長部局でやって、事務的なものは教育委員会にお願いせざるを得ないということで、とりあえず市長部局で担当するということです。掛川市につきましても市長部局でやるということですが、昨日会議を開いたようですが、今後どんな形がいいのかということを含めて検討していくということを聞いております。御前崎市につきましては、できれば教育委員会にお願いしたいと考えております。

○萩原教育部長

ただ今、説明がありました「御前崎市総合教育会議の運営について」ご協議をお願いしたいと思います。この案件につきましては、事務局を担当する部署につきましては総合教育会議が定めるということになっておりますので、事務局を市長部局に置くべきか、教育委員会事務局に置くべきかをご協議いただければありがたいと思います。よろしくお願いします。

○伊藤委員長

過日、沼津市で教育委員長会議がありました。4月から新しく「新教育長」に移行していくのが本来の姿ですが、当面、継続していかれる市町がほとんどだったので、そのままいくということをお聞きしております。その中で、磐田市さん、掛川市さんのように4月から新しく「新教育長」になられたところは、新方式の形で進めていくということでした。牧之原市さんや菊川市さんとは直接お話ができなかったですが、やはり教育委員会現状の会議、それからこの総合教育会議というものが2通りに分かれて行われていくというところがほとんどのようでした。

○篠田教育長

先だって教育長会議がありまして、23市町の教育長が集まりましたが、教育委員会部局がやるところが多くて、「新教育長」になったところも教育委員会で補助執行していく市が多くて特に理由はなかったですが、しかし、補助執行になっても市長さんとの事務調整は行いつつ、総合教育会議に臨むというところがほとんどでした。市長部局と調整を図ったうえで補助執行がされていくというところがほとんどでしたので、そのへんのところを市長部局ではどのように考えているのかお聞きしたいです。

○大川総務部長

総合教育会議の役割も教育大綱の策定ですとか専門的な分野にも関わるかと思いますが、円滑な運営を図る意味から、市長部局がまったくやらないということではなくて、事務的なことは教育委員会にお願いするほうがいいのではないかとということで、先ほど言いました補助執行スタイルでお願いしたらというように考えております。

○萩原教育部長

田代委員さん、いかがでしょうか。

○田代委員

今、大川部長さんから、専門的な分野とか実際の調整とかになったら、補助執行のほうがよりよいのではないかとのご意見でしたが、この会議がよりよく進行できるようにするためにと考えれば、私はそれでもいいのではないかと思います。ただ、今スタートしたばかりですが、今後ずっと同じように継続されていくのか、途中からのいろいろな問題点等が起きたときには、変更が可能かどうかということをお聞きしたいと思います。

○萩原教育部長

補助執行を受けた場合、今後の流れの中でそういうことを変えていくことが可能かどうかというご質問でしたが、いかがでしょうか。

○大川総務部長

たぶん、掛川市さんとか牧之原市さんも市長部局でとりあえずスタートすると聞いておりますが、もし教育委員会にお願いするということになれば規則を変えることは可能だと思います。逆に御前崎市の場合は、先に補助執行スタイルでやって、やはり市長部局の方がいいということになれば、市の対応としますと規則を改正して、もう1回市長部局に戻すことは可能だと思います。上の法律はわかりませんが、多分、それにずっと縛られることはないと考えております。

○萩原教育部長

事務局につきましては、今後、必要性があれば変えることも可能だということですのでよろしく願います。吉村先生、いかがでしょうか。

○吉村委員

今、お話を聞いて、やはり実働を考慮していくと、補助執行でいったほうが最初は流れとしてスムーズにいくのではないかと感じます。田代先生が言われたように、やはり始めてなので、やっていく中でいくつか課題とか問題が出てきたときに、そのことを検討する柔軟性を持っていればよろしいのではないかと思います。

○萩原教育部長

紅林委員さん、いかがでしょうか。

○紅林委員

私も皆さんと同じ意見で、補助執行の形で最初やっていただいて、いろいろな問題が出てきてこれではやり難いのではないかなとなったら、もう一回考えていくということでもいいと思います。

○萩原部長

それでは市長、いかがでしょうか。

○石原市長

皆さん同じご意見のようですので、私もそれでよろしいと思います。

○篠田教育長

つきましては、会議の回数ですが、この間の教育長会議では、年2回ぐらいというところがほとんどでした。ただし、今年度につきましては、大綱を市長と一緒に策定していくということから、年4回から5回というところが多くて、教育振興基本計画ができているところでも、もう一度大綱をつくり直すということですが、市長さん、今年度につきましては、本市は年3回やっていただくことはできますでしょうか。というのは、今日1回目で、2回目は10月ごろの新年度予算編成の時に、いつもの「市長さんと語る会」のような形で教育委員と語っていただいて、最後2月に「第2次総合計画及び教育振興基本計画、そして大綱の策定に向けて」相互で確認するというので、できれば今年度については年3回ぐらいでどうかと思いますが、市長のお考えはどうでしょうか。

○石原市長

2回でも3回でもいいだろうけども、進めていく中で、スタートの年なので臨時に4回になろうが構わないと思う。

○伊藤委員長

当面はできるだけ一緒に参加できるような、教育委員会そのものの会合というよりも、ここにありますような総合教育会議という形の中で進めて、大綱がまだ決まっていない様ですが、市長さんそのものはなかなかお忙しいと思われるので、副市長さんにも参加していただき、この会議に加わっていただければ一番良い形のものが出来ていくと思います。

○吉村委員

付随していいですか。運営についてはだいたい方向性が決まってきたと思いますが、前にも教育委員会の中で話題にしたと思いますが、学校組合の委員との関係をどうするか、ここで話をしておいた方がいいと思います。

○伊藤委員長

その通りだと思います。牧之原市さんに対しても、合同会議を開いていただいて、御前崎市側だけの片寄ったものになりがちなので、それをどういう具合に配慮していけばいいのかなと思います。

○篠田教育長

先だって牧之原の教育長さんと話をしたときには、この問題は牧之原も菊川との関係で憂慮しているということで、私の方もどうしたらいいかなという問題ですが、ベースが御前崎市の教育ということで、総合教育会議を1回はやらなくてはならないと思っていますが、ベースはあくまでも御前崎市の教育をもとにやっていくのがいいかなと思います。牧之原の教育も入れるとなると、少しそれは大変になってしまうかなと思います。

○萩原教育部長

総合教育会議の一部事務組合の関係につきましては、先にお配りしました総合教育会議関係のQ&Aの22ページにも書いてありますが、牧之原市との関係等につきまして、教育総務課長からお話しをしたいと思います。

○石原市長

その前に、うちの方の教育委員さんは兼務だが、牧之原はどうなっているの。本目さんとか原崎さんは牧之原の教育委員に入っているの。それとも組合立だけなの。

○萩原教育部長

組合立だけです。

○石原市長

菊川は、牧之原と別に教育委員会を作っているの。

○萩原教育部長

牧之原中学校の一部事務組合につきましては、まったく兼務の方はいらっしゃらないと。牧之原の教育長さんだけそこに入っていて、あの方方は市の教育委員さんとは別の方が、教育委員会として組織していると聞いております。若干うちの方とはその辺が違います。

○伊藤委員長

市と学組を一緒に開くのが合理的と思いますが、菊川とか他の方については別の問題としてやっていくしかないのかなと思いますし本筋だと思います。別々に開催されるのは、合理的ではないなと思います。

○萩原教育部長

一部事務組合については議会も別でございますので、御前崎市の総合教育会議と一緒に場でやることは、これはできないと認識をしております。あくまでも学校組合は学校組合として、総合教育会議を開く必要があるであろうと。それで大綱についてもそちらで作る必要があるであろうと思いますが、22 ページを読ませていただきますと、「御前崎市・御前崎市牧之原市事務組合」という連名の形で大綱を策定することができとなっております。牧之原市の情報を聞いたところ、牧之原市の組合につきましては、組合の教育委員会の時を捉えて、管理者も含めて、総合教育会議という形をとっていったらと考えていると聞いております。うちのほうも今お話ししましたように、この会と一緒にというのは好ましくないというか、できないと考えておりますので、そういう教育委員会等の場を捉えて、管理者もそこに来ていただいて、総合教育会議という場をもったらどうかと考えております。

○石原市長

組合立はうちの方が管理者なので、うちが主導権をもってやっていかないと。

○萩原教育部長

一部事務組合はそういうことで特殊なものですから、県内でもうちと牧之原、菊川しかございませんので、ぜんぜん違うこともできませんので情報を集めています。向こうもまだ開いた訳ではございませんので、一緒にやることができないのなら、なるべくそういう場を捉えた方がより合理的ではないかと考えての今の発言でございます。

○吉村委員

そこらをもう少し柔軟にできないのかね。また別個にやるということでしょう。法的にはそうだろうけど、管理市として、たとえば御中に関わることについては、一応御前崎市の方針ではほぼやっている訳ですよ。牧之原の方針を聞いても、それは学組の、具体的には御中の中に取り入れていくのではなくて、やはり御前崎の方針でいくので、あまり実にならないという感じを持ちます。ちょっと私的に牧之原の方と話をしたときには、できたら管理市の考えでやっていただいたらという話も出ました。最初だからきちんと別に分けてやると言えば、それはそれでけっこうだけでも。

○萩原教育部長

これにつきましては、再度、県とかいろいろな法律との兼ね合いもありますので確認はいたしますけども、今の自分たちの知識の中では、一緒にやることはできないと。だけど一部

事務組合もこの会議は開かなければならないと考えれば、その中でより合理的なもち方をするのがいいかなと思っております。それは管理者であります市長とも相談をさせていただいてやらせていただきます。

○石原市長

あまり県とかに聞くのではなく、御前崎のやり方である程度やってもいいのではないの。

○萩原教育部長

この総合教育会議については、法を根拠にやっておりますので、それから外れることは好ましくないと考えております。ですからそのところはもう一度確認は取りますけども、一緒にやればいいという訳にはいかないと思います。

○石原市長

牧之原は3つあるということだな。牧之原と菊川と自分のところと。

○萩原教育部長

そういうことです。ただ管理しているのは牧之原中学校だけです。

○篠田教育長

法律はそうですが、実際分けてやったということにして、御前崎市のものが御中のもとになるのですから、会議の合理性からいったら3回のうち1回は、この場で総合教育会議と一緒にやるという形でもいいかなと思いますが、あとは学組の教育委員会等で了承を得るという形にしたらどうでしょうか。

○萩原教育部長

それではその関係が法的にどうかというところにつきましては、教育総務課で確認をさせていただいて、適法であるのであればそういう形も取れるということで、また報告させていただきます。

では、第1番目の協議につきましては、教育委員会で事務を補助執行という形でやっていくということで、この会議での合意をいただきましたので、そういう形で進めさせていただきたいと思います。

(2) 御前崎市教育大綱の考え方について

○萩原教育部長

それでは、続きまして「御前崎市教育大綱の考え方について」協議をお願いしたいと思います。教育長いかがでしょうか。

○篠田教育長

これにつきましては、市の第2次総合計画が今年度中にできあがるということも踏まえて、その総合計画に合わせて、御前崎市の教育振興基本計画を5年ぐらい見越して作らなければならないと思っておりますので、それと合わせて、そこから抜粋して大綱を3月までに作っていくという方向で私としてはいきたいと思っておりますが、市長さんいかがでしょうか。

○石原市長

いいと思うけど、第2次総合計画の中に入れていくにも、今度白羽小のプールをやって、それが終われば御小のプールもやってやりたいし、それが終わったら御中と浜中の校舎の建て替えとか、そこらのからみもあるので、ぜひ皆さんで協議してもらって、しっかりとした大綱を作りたいなと思います。35人学級のこともはっきり謳っとかないとね。

○篠田教育長

今年度、御前崎の教育についていろいろご配慮いただいたことを話しながら、御前崎の教育の方向性を今年度中に固めていけたらいいなと思っています。市長さんのお考えを聞きつつ、そういったことをしていきたいと思いますがいかがでしょうか。

○伊藤委員長

今後の市の10年計画の中でまとめていくのも時間がかかると思うので、教育委員会としてもできるだけ早めにそういったものを作っていくことが必要なので、やはり時間もかかると思うので、数回持っていかないと中々うまくでき上がっていかないのではないかと思いますので、その辺をよろしくお願いします。

○萩原教育部長

大綱の関係につきましては、先にお渡ししました大綱関係のQ&Aの4ページに、教育振興基本計画というものが、これは国のものですがあります。その中の3ページに書かれていますが、主に1部と2部の成果の目標の部分は、これを参酌して作りなさいというようなことが言われています。今の教育長と市長のご発言の中で、今、市で総合計画を策定中でございますので、そういうものにもらんで、大綱については、そういうスケジュールの中で練っていくということではいかがでしょうか。吉村先生、いかがでしょうか。

○吉村委員

いいと思います。それで今まで市長さんの方針も「広報おまえざき」で見ると、やはりキーワードは「スクラム」というような感じになっているのではないかなと思います。そういうことで、今言われたような市の計画に沿った形で作っていけばいいのではないのでしょうか。

○萩原教育部長

田代先生、いかがでしょうか。

○田代委員

合併してから10年の間に、市の総合計画に沿って、いつもそこに立ち返りながらどうだろうかなと私は考えてきました。ですから、新しい10年が市の基本的な考え方にきちっと沿っていくのが当然であろうと思いますが、大綱については、やはり教育分野の独特なものがありますので、できるだけ早く、きちんと作ることが肝心だと思います。

○石原市長

昨日、池高の理事会に行ってきたが、望月基金が1億3千万円くらいある。望月の社長は、国際交流の子ども達のために大いに使ってくれと。だから、池高にもね、それは御前崎の子どもではないかもしれないが、そういう子どもにも海外へ行って勉強するためには、いくらかみてやるよというやり方でないと。今まで御中は、牧之原の子どもということで、御前崎の税金だからといって出さなかった。そこは枠を広げてやっていかないと。組合立である以上は、それが解消するまでは仕方ないかもしれない。御前崎の子と牧之原の子を分けるのはどうかと思う。それに絡んで池高がもっとよくなってくれば、子どもたちがここに残るよね。

○伊藤委員長

やはり、そういう大きな目で見てもらえらる必要があると思いますので、はっきりいって地頭方の子どもとか、いろいろなことをあちこちから聞いたときに、行かれないというのはやはりちょっと変だなと思います。教育の立場の人間であれば、絶対そのように差別するのはお

かしいと思わなくてははいけないと思いますので、市長さんが言われたように、どんどんそのようなことに使われていいと思います。

○石原市長

何で御前崎のお金を牧之原の子どもに使うのか、という意見もある。もっと子どもの英語能力を伸ばすことをどんどんやらなくてははいけない。今朝、テレビを見ていたら女の子が10カ国語を話していた。10カ国話すというのはものすごい世界だ。そういう人間が育ってくればいいなとテレビを見ながら思ったが。

○吉村委員

望月財団のお金は子どもにということだけれども、本当に力のある教員を育てるという意味から、言語力も含めて、内地留学とか、あるいは外へ出ていくとか、そういうような発想も必要だと思う。去年だかおとしに、先生方の研修費を上げたらちょっと意見が出たということを知ったが、子どもを育てるには、やはり一の関係は教師なので。教師の力がいろいろな面で忙殺されて、本当に研修で力を高めていく機会がとれない。それを解消してあげるような施策も考えてやらないと。

○伊藤委員長

要するに県の職員だからということですよ。仕事上で考えると、自分の会社に遠くから勤めに来てくれている人に対して、大手企業にしてもそうですが、自分のところに他から来てくれている人間に対しても教育をどんどん施して、それに追いつかせるようにするべき、と考えるべきではないかと思います。それはこの街に来てくれた以上は、その先生を大切に育てて、子どもに対する教育ができるようにしていくのが本筋ではないかと思うし、そんなことを言われる筋合いはないと思う。

○石原市長

望月基金は、望月さんから市長にすべてお任せするという話をもらっているのですが、どういう形で使ってもいいと思うが、やっぱり御中全体とか、池高全体も含めてやる方がこれからはいいと思う。そのお金を使って吉村委員が言われたように、先生を育てる資金に使えばいいんだよね。

○萩原教育部長

ただいま市の教育の根幹の大きな協議をしていただきました。これにつきましても、大綱をまとめ上げる課程の中で、まだまだ協議をお願いしていくことがあろうかと思います。今日は限られた時間でございますので、大綱につきましてもスケジュールは、先ほど皆さんのお話の中で合意をいただいたということで、総合計画に合わせて今年度進めていくということをお願いしたいと思います。

(3) 御前崎の教育と教育課題について

○萩原教育部長

最後の協議となりました「御前崎の教育と教育課題について」教育長からプレゼンをいただいた後に、皆さんでご協議をお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

○篠田教育長

お願いします。今後、大綱を今年度中に作るに当りまして、先ほど吉村先生が言われたように「スクラム」がキーワードになるのではないかというお話がありましたので、今年

度の教育を説明しながら、大綱に向けてどういうことを盛り込んでいったらいいか、というご協議をしていただけたらと思います。まず、簡単に説明します。

27年度の「御前崎の教育」ですが、昨年度までの経過では、やはり保育園、幼稚園、こども園、小・中学校の途切れない教育の必要性が随分と問題となりました。また、愛情に飢えた子どもたちに、自己肯定感の少ない子どもたちにとって、志と夢と自信を持った子どもの育成をしていかなければならない。それから社会教育とか地域との連携の必要性。最後は家庭教育をどうしていけばいいか、これらが今、大きな課題です。この人づくりを昨年度は、学校教育、乳幼児教育、家庭、社会教育、これらがスクラムを組んで行こうということで、学校だけのせいでない、家庭も大事、それから地域ができることは何か、地域の方が私にできることは何かしら、みんなでつながらないと、という意識を持ちながら、子どもたちの学びと育ちを、心をつないでいく「スクラムプラン」ということを昨年度やってまいりました。

昨年度の目標はこのような目標でしたが、今年度につきましては、「郷土を愛し、未来を作る市民の育成」としました。それは、基本方針を、昨年度までは「自立の市民の育成と市民力、地域力の向上」としましたが、今年度は社会全体でこういった子どもを育てていく必要性があるということ、そしてもうひとつは、その社会全体が生涯に渡って学び合っている地域社会を作っていく、この方針を重点に置き、進めていくことが大事だろうと。21世紀の子どもに求められている力は、上に書かれている通りです。主体的に行動し、主体的に考えていく力です。そこで、御前崎市の基本理念をどのように作ったかということ、この御前崎の暖かな地域環境、それから豊かな自然環境、これを案外私たちは認識していない、市民も認識していない、これの認識をしながらこれらを活かして、社会の変化に柔軟に対応して、多くの他者と様々な関わりを広げる中で、自分の人生と自分の町を良くしようとか、自分の周りの社会を良くしようという力を切り開いていく力を、スクラムプランで育てていこうということです。これが今年度の「御前崎の教育」の基本構想です。

特にこの中で、今まで教育委員会とか途切れない教育とかやってきましたが、今年度大きなものは、地域みんなで考えるコミュニティスクールの立ち上げです。スクラムスクール運営協議会とも言っていますが、中学校区単位でこれをさっそく5月に立ち上げていく予定です。県下では磐田市に次いで、富士宮市とここと合わせて2つ目になります。文科省はこれを全学校へということですが、御前崎については、これを中学校単位でという御前崎独特の地域協議会にしていきたいと考えております。今、幼・保・こども園につきましては、特に今年度の重点は、小学校の学びにつながる主体的な遊びをもっとやってほしいと。どうかすると、遊びを与える感じになっていますが、子どもたちが学びにつながる主体的な遊びにつながるといことで、認定こども園御前崎こども園を開設しまして、これは他市にはない、既存の施設を利用した保育園部と幼稚園部の認定になりました。昨日、見に行ってみましたが、この既存の施設を利用した、道を隔てた認定こども園が意外な効果を生んでいて、0歳から2歳までの乳児棟については、今までは5歳児もいたものですから遠慮していたが、本当に1歳児も2歳児ものびのびと危なくない中で遊んでいました。それで幼児棟では、長時間部の子と短時間部の子が一緒になって、人数が増えたので大変活気があふれていて、去年の風景とすごく変わっていたのが印象的でして、子どもたちが裸足になって遊んでいて、先生も裸足になって遊んでいた。こういったことを御前崎が、やっぱり良さを活かしていかななくてはならない。

それから、子育て支援センターが現在、北こども園、さくらこども園、御前崎こども園にできましたが、昨年度の実績でいくと、高松保育園の「にこにこランド」と「ぴよぴよ」を入れますと、月延べ3,500人の利用があります。年間にすると40,000人近くの利用がありますので、これらが若い母親へよい影響を及ぼしていくのではないかと考えていて、これらも御前崎市の特徴ではないかと思っています。

小中学校におきましては、学ぶ楽しさがわかる授業、学力です。21日に学力テストが行われました。先ほど英語の課題が出ましたが、問題を私もやってみました。やはり文章を読める子にしないとテストができない。最初から文章だらけなので、文字を読める子にしていかなないとテストはできるようにならない。それで、スクラム授業研究による那須先生指導が11年目に入りました。今回、予算を付けていただきまして、1校2回ずつ那須先生が、本日は常葉大の黒沢先生が北小へ来ています。これは他市からは大変うらやましがられていて、こんなに大学の教授が1校ごとに入るということはないということです。これを活かしていくことと、しおかぜ先生の導入が本当にありがたいことで、教育長会議でも、ある教育長から、「篠田さんいいね。本当はやりたいけどお金がないからできない。」と。磐田市の教育長さんからは、「よくこんなに早く導入してもらえたね。」と言ったので、それは「ご理解のもとです。」ということで、「磐田市はこんなに早く導入できなかった。何年もかかって導入した。」ということです。

学力向上コンサルタントも付けていただきましたので、さっそくしおかぜ先生ですが、本市の子どもたちです。県の試験に落ちた先生がいますが、学力向上コンサルタントが4月1日から指導してくださっていて、これがちょっと遠いですが、しおかぜ先生の実態ですが、大変よくやっているということで、県は初任者の研修がつきますが、市では責任を持ってしおかぜ先生に指導していくということをしています。

それから学校司書が常勤となりましたので、大変もう回ってくれています。それからスクールソーシャルワーカーが県の配置で2名付きました。これを今後ですね、県が外れたときに、大綱にも関係してきますが、市で導入しなければならない、つかまえておかなくてはならないと思っています。

I C Tの環境は、菊川が今有名になっていますが、本市もデジタル教科書が全校に入りました。それから教育ネットワークLANが整備されます。

運動器検診がひとつここにありますが、今年度も埼玉県の新井整形外科医が5月に来てもらえることになりました。まだやっていない東小で検診をして、体育主任を中心にこの検診を進めていく予定です。

それから、白羽小のプール建設がいよいよ始まります。

スクラムスクール運営協議会が5月から始まりますが、併せてシニアスクールが白羽小と浜中で2学期から開催されます。

それから一番下にスクラムスクール防災訓練がありますが、これも他市にはなく、保・幼・小が今、一体となって引渡訓練を行っています。今後、その引渡訓練にいかに関係する所の事故に伴うこの防災訓練をどうするか、ということを考えていかなければならないと思いますので、田代先生、あとでご意見ををお願いします。

そうしたことから、学校教育課ではこういったパーセントを上げていますが、一番問題は不登校の出現率です。ここが本市の特徴で、1%以下を狙っているのですが、現在、ある中

学校は3%、ある中学校は2%になっています。小学校でも高い率です。

社会教育におきましては、様々なことを市民協働でやっていかなければならない。これを体育協会の自立に向けること、マリンスポーツクラブが学校に協力してくれることに、市民協働から、市民協働の図書館で、図書館司書だけがやるのではなく、市民とともにやっていく図書館。で、これは先ほどからの話のように他課との協力です。

御前崎の教育は、「小さいからこそできること」、「御前崎ならではのこと」、そして「夢を抱く教育へみんなでスクラム」、これらをどう大綱に結び付けていきながら、5年後あるいは10年後を見越して、何をやっていかなければならないか、大綱の中に予算措置も含めて考えていくことが必要であるかなと思っています。簡単ですが以上です。ご意見を聞かせていただければと思います。

○萩原教育部長

それでは、御前崎の教育と教育課題ということで、今、プレゼンがありましたけれども、委員の皆さん、ぜひ活発なご意見をお願いいたします。

○田代委員

今、最後の方に出てきました防災教育ということについて、今、現状では大きく3つ課題を持っているのですか。その中の1つが防災教育の多様な実施が今すごく大事なかなと思います。というのは、いろいろな会合に行って、「どうなっていますか」と聞かれることもけっこうあるのですが、それは、津波の防災訓練等については、地震とかずっと積み上げられてきたものがありますが、原子力発電所の事故によるいろいろな防災について、それはどんなふうに子どもたちはわかっているのですか、というようなこともこの前聞かれて、具体的にはそれに私はお答え出来なかったのですが。実は、平成25年度に御前崎市の防災教育のあり方検討会があって、その中の提言に「市民も授業の中で様々な事象の災害があったときに、どんなふうに対応するか、ということを事前に勉強することが必要だ。」ということで、文科省資料にも載っていました。ですから、しっかり知って、その年齢なりに知って正しく怖がって対処していくということが必要ではないかなと思いますので、こういうような事例が出されて提言されていたら、どのようにそれが実施をされているかということ、やはり教育委員会としては把握しておく必要があるのではないかな。で、4月8日の新聞でも原発事故に対する避難訓練が、全国の中ではこんなふうだという記事も載っていたりして、一般の皆さんにもそういうことに対する不安というものがあるのではないかと思いますので、教育委員会だけでなく、まさに行政と関連してそういうことをいろいろと考えていく必要があるかと思いました。もうひとつそのことを強く思ったことは、私どもは昨年度、仙台と女川に被災地の視察に行かせていただきました。そのときに、本当にああいうものすごい災害が起こったときに、対処する力というのはどこから出てくるかというと、日常の訓練とか日常の考え方をいろいろ持っている中で、校長先生だけでなく教職員が判断して、決断して実行まで最終的にはやらなくてはいけないという生々しいお話をいろいろ伺いましたので、やはりこの点については、市の防災や学校ごとお互いが理解し合って、どのようにしていくかということは、課題として残されるのではないかなということを思いました。

○萩原教育部長

こういう防災も教育委員会だけではできない分野の中で、せっかくこういう会議の中で1つの発言としてありましたので、また、総務部長さん、防災課の方にもこの旨を伝えていた

だいて、市長部局でのご協力というようなことを、今後、時間も継続してこういうことが出てくると思いますので、よろしくお願いしたいと思います。

他の委員さん、ご意見いかがでしょうか。

○伊藤委員長

子育て支援センターということで、今、若いお母さんに対して協力的なものがいただけているということです。それで自分がちょっと思ったことは、胎児というかお母さんのお腹の中に胎児としている間の教育というものが、一番その時の母親が聞く耳を持つてくれる時期ではないかと考えているのですが。そういう時にいろいろな教育ができるシステムが何か作れないかなと思います。というのは、この間の沼津の教育委員長会議の中で、どういった時に一番お母さん方が聞く耳を持つてもらえるかということで、その時にぼくもちょっと提案させていただいたのですが、島田市さんで、子どもができたときに母子手帳というものが貰えたと聞いたときに、その時に教育をしていくのが一番ではないかということで、そのような取組をしたいというようなことを島田市さんでも提案されたみたいですが、まだそこへんも具体的にはなっていないです。できれば今の御前崎市のお母さん方の家庭力アップにつなげるのに、一番近道なところではないかなと思ったのですが、その辺はどうでしょうかね。新しくそういうものを設けるといのはなかなか大変だと思うのですが。

○篠田教育長

今後、国保健康課やこども未来課とこういった実態を話していく中で、他市はかなり講座を開いていて、年間何回かの、そういったことをやっていかなければならないかなと思うのですが、保育士さんもかなりそういった講座をやっていると思いますが、問題は、なんでもそうですが、来てほしいような人が来ないということです。そこが一番の課題というか。

○伊藤委員長

今のお母さん方の子どもを見ていると、何かいろいろなものが欠けているのでは。日本人としての心の教育がされてこなかったのかなと思えるぐらいに感じます。そこで聞く耳を持つてる間に教育をし直していただければなんとかなるのかなと思います。なんだか自分たちの子どもを育ててきたお母さん方の育て方を間違ってしまったのかもしれないのですが、そのへんがちょっと気になります。特に御前崎市にはそういうようなことが、なんとなく目立ちすぎているという感じがします。そういうものを何とか気付かせ、根本的にうまくできていくような状態に教育ができればいいと思うのですが。

○田代委員

今のことに関連して、昨年度、子ども子育て会議を何回かやられて、御前崎市なりの大綱というか、そういうものが行政の各課から、もちろん教育委員会からも代表が出たりして話し合いがされたのですが、そのできたものが、本当に胎児の段階から二十歳になるまでに、いったいどうやって関わっていったらいいか、というプランはできたが、大事なのがそれが本当に実行されたかどうかということだと思うのですが。こういう案ができたことは、各部署で実行されているということ、やはり費用対効果というのですか、それを作っただけで終わってしまっているということが往々にして行政にはちょっとある、大変失礼な言い方ですが、せっかくあれだけ話し合ったら、本当にできているかどうかということがどうやって見ていったらいいかということも課題になって、今、委員長さんがおっしゃる、まさに家庭の力、教育力をつけていく根源に関わっていくと思います。

○萩原教育部長

今、田代委員がおっしゃったのは、子ども子育て支援事業計画のお話だと思います。あの計画は本当に重要な計画でありますので、あの策定がゴールではなくて、あれがスタートということでございますので、あの会議の皆さんに毎年、検証という形でまたお集まりいただくように考えております。その計画ができておりますので、それを教育委員会で管理するのか、こども未来課でやるのかとか、いろいろなことがありますけど、年1回は必ず検証という形で皆さんにお集まりいただいて、今、この事業についてはこういう状態です。目標とした人数が現在、状況はこうです、というようなものを示しながらやっていくと考えておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

市長さん、御前崎の教育についていかがでしょう。

○石原市長

本当に教育に熱心に使っていただいておりますが、あと、もう一つは体力づくり。というのは、今、牧之原と御前崎の消防署が組合立でやっていたのが分離して、大川専門学校から受けにくるのは試験の勉強だけしかやっていないから、面接なんかもうすごく上手にしゃべる。大学出の頭のいい子だなと入れても、消防署というようなものは、綱渡りとか何もできないですよ。やはり、スポーツを通じて体を鍛えておいてもらうというのは、これからの子どもは大事だと思う。頭がいいのも大事だけど、体を鍛えて心がきれいなら、少しくらい頭が悪くてもいいと思う。剣道や野球をやっている子は、やっぱり消防署に入っても辞めない。最後までやり通す。

○萩原教育部長

吉村先生、いかがでしょう。

○吉村委員

市長さんのお話を聞いて、新聞の川柳に出ていたなと思った。「鉄は熱いうちに打てばいなくなる」。会社で入ってきた者に対して、教育をちょっときつくやるとみんな辞めていってしまう。そういう状況はあるなと感じました。

○萩原教育部長

紅林委員さん、いかがでしょう。

○紅林委員

その反面、叱られたがっている人も多い、とも新聞に書いてありました。叱られて育っていない、ほめられて育ってきているので。社会全体がゆるいというか、その中でちょっとでも叱られると自分のことを思ってくれているのではないかと、上司がちょっと叱ったりすると、上司が自分のことを考えてくれているから叱ってくれてありがたい、と思う子たちもすごく多いと書いてありました。だから、子どものうちから、たくましさに欠けるといって、泣き出してしまうようなことでもないとは思ったりするのですが、ちょっと何か言うと泣いてしまう、そういう子が多かったりとか、すぐ辞めると言ったりとか、その気持ちの弱さはどこから来るのか。それはこれからの課題かなと思います。

○萩原教育部長

終盤、議論が白熱してまいりましたが、お忙しい中、市長さんにお願ひした時間も過ぎてしまいましたので、第1回の会議につきましては、以上で協議を終了させていただきたいと思います。先ほど、この会議を今年については3回持ちたいとの話もありました。次は多

分、予算関係の時にお集まりいただかなくてはならないかと思っております。また、具体的な日程につきましては、調整をさせていただいて、改めて事務局からご連絡をしたいと思っておりますのでよろしくお願いしう。

それでは、最後に市長にまとめも兼ねまして、閉会のごあいさつをお願いします。

6. 閉会

○石原市長

それでは限られた時間ではございましたが、大変貴重なご意見をいただきまして、誠にありがとうございました。第1回御前崎市総合教育会議を開かせていただいた訳でございますけれども、いろいろな議論を示していただきありがとうございました。これからの御前崎の教育で目指す「スクラム」という理念は、すばらしい取組と思いますし、学校教育での「スクラム・スクール・プラン」による途切れない教育という取組に期待するところでございます。本日は、教育細部にわたる突っ込んだ議論はできませんでしたが、今日の会議により、いろいろ見えてきた部分もございますので、教育委員会、そして私もお互い十分思いを巡らし、次回の会議に臨みたいと思いますので、引き続き、皆様のご協力をお願い申し上げまして、ごあいさつに代えさせていただきますと思います。本日はありがとうございました。

○萩原教育部長

それでは、以上で第1回の総合教育会議を閉会させていただきます。